

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

137号

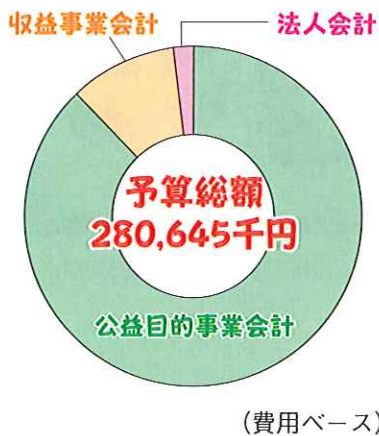
■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp/>

- 平成25年度予算・事業計画のお知らせ
- 「継承部会・平和案内人合同広島視察研修」開催報告
- 平成24年度 被爆体験講話状況報告
- 「継承部会・平和案内人交流会」開催報告
- 「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」開催報告
- 「平和朗読」開催報告
- 「アジア青年平和交流事業報告会」開催報告
- TOPICS! (北朝鮮の核実験等に対する抗議文送付、市民対象碑めぐり報告、賛助会員紹介 ほか)



「継承部会・平和案内人合同広島視察研修」での交流会の様子（4ページに関連記事）

平成25年度の予算と事業計画をお知らせします!



公益目的事業会計 261,170千円 (前年度比 △33,473千円)

不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する事業をいいます。

内訳 ①平和推進事業(30,366千円)

(協会が実施するさまざまな平和関連の事業のための会計です。)

②原爆資料館運営事業(15,633千円)

③原爆資料館図書資料収集整理事業(4,881千円)

④国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業(210,290千円)

収益事業会計 16,940千円 (前年度比 40千円)

原爆資料館の図書等販売コーナーで平和関係の図書やグッズを販売する事業のための会計で、収益は平和推進事業に繰り入れてさまざまな事業に使っています。

法人会計 2,535千円 (前年度比 57千円)

法人の事業を管理するため毎年度経常的に要する費用をいいます。

みなさまからいただく会費や寄付金を受け入れる2つの会計(平和推進事業会計・法人会計)の主な内訳です。

【収益】

(単位：千円)

科 目		平和推進 事業会計	法人会計	計	前年度 との差
基本財産運用収入	基本財産から得られる利子	10	0	10	△ 15
会費収入	会員の皆さまからいただく会費	3,269	1,285	4,554	△ 321
補助金収入	長崎市から交付される補助金	25,917	1,183	27,100	0
寄付金収入	協会に寄せられる寄付金	600	0	600	0
雑収入	各科目に当てはまらない収入	1	0	1	0
合 計		29,797	2,468	32,265	△ 336
他会計振替額	収益事業からの繰入金	130	0	130	30
合 計		29,927	2,468	32,395	△ 306

【費用】

科 目		平和推進 事業会計	法人会計	計	前年度 との差
事業費		30,366		30,366	△ 620
発刊事業費	発刊事業等に係る費用	1,187		1,187	△ 26
啓発事業費	被爆体験講話の実施や市民のつどい、講演会の開催等に係る費用	2,067		2,067	△ 36
調査研究費	国際会議等への出席に係る費用	100		100	57
育成事業費	部会活動の支援、アジア青年平和交流事業、平和案内人の派遣・育成、秋月グラント(助成)事業等の実施に係る費用	5,072		5,072	△ 331
人件費	事業に係る人件費	18,697		18,697	1
その他事務費	広報・事業推進委員会会議費、PCリース料など共通の事務費	2,804		2,804	△ 28
減価償却費	什器備品・ソフトウェア	439		439	△ 257
管理費			2,535	2,535	57
人件費	理事会・評議員会等に係る人件費		1,183	1,183	△ 4
その他管理費	協会の運営管理に係る費用		1,285	1,285	61
減価償却費	ソフトウェア		67	67	0
合 計		30,366	2,535	32,901	△ 563
減価償却費を除いた合計		29,927	2,468	32,395	△ 306

I 平和推進事業（公益目的事業会計）

発刊事業

会報「へいわ」の発行 年4回、協会活動の情報発信を行います。

ブックレット「平和のあゆみ」の発行 協会の取り組んだ事業概要（年1回発行）。

広報活動 情報ボックス、会員勧誘リーフレット作製。

啓発事業

平和学習の実施 被爆体験講話、平和学習用のビデオ・写真パネルの貸出など。

講演会等の開催 年1回、平和問題への認識を深める講演会を開催。

国連軍縮週間行事 市民向けイベント「市民のつどい」の実施。

調査研究費

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムへの参加。

育成事業

部会活動 継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会の各活動への支援。

アジア青年平和交流事業 日本の若者とアジア諸国の若者との意見交換、相互理解を目指して実施。

平和事業への支援 協会の活動趣旨と一致する事業などへの助成。

秋月グラント 被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等への助成。

平和案内人派遣事業 碑めぐりや資料館、祈念館等の案内を行う平和案内人の派遣。

平和案内人育成事業 碑めぐりや資料館、祈念館等の案内を行う平和案内人（第5期生）の育成。

II 原爆資料館運営事業（公益目的事業会計：長崎原爆資料館観覧料徴収・受付業務）

III 原爆資料館図書資料収集整理事業（公益目的事業会計：同資料館図書資料整理業務）

IV 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業（公益目的事業会計）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の運営を通じて、協会とのかかわりの深い次の事業を行います。

被爆体験講話映像制作 被爆体験講話の収録、映像化。

被爆関連資料多言語化 収集した被爆体験記や被爆証言映像の翻訳、吹替映像の制作。

海外原爆展 原爆のことを知る機会の少ない海外の人たちに向けて現地で原爆展を開催。

ピースネット 地理的理由により、来崎が難しい遠隔地の小・中学生、海外の人たちを対象にインターネット会議システムによる被爆体験講話を実施。

被爆体験記朗読ボランティア育成 被爆の惨状を朗読によって語り継いでいくボランティアの育成。

平和ボランティア育成外国語講座 被爆の実相を世界に広げていくため、外国語（英語、中国語、韓国語）で平和ゾーンを案内するボランティアの育成。

平和・国際交流のためのプログラム アジアの若者による平和のためのネットワーク作りのためのプログラムの実施。

V 図書販売事業（収益事業会計）

VI その他管理運営に係る費用（法人会計）

継承部会 平和案内人

合同広島視察研修を開催

2月19日・20日の二日間の日程で、継承部会員と平和案内人の52人で広島を訪れ、合同広島視察研修を開催しました。

一日目はまず、原爆死没者慰霊碑へ献花を行い、黙祷を捧げて原爆死没者の冥福を祈った後、班に分かれて、ヒロシマ・ピース・ボランティアの案内により、広島平和記念資料館と平和記念公園を見学しました。



平和記念資料館を見学する参加者

「ヒロシマ・ピース・ボランティア」とは、広島平和記念資料館や平和記念公園などの解説を行うボランティアガイドです。

続いて、広島被爆体験証言者とヒロシマ・ピース・ボランティア47人の方々とともに、継承部会員、平和案内人を10班に分け、交流会を行いました。班での話し合いでは、被爆体験の継承についての取り組みなど、お互いの活動を知るとともに、日ごろ感じている問題点や課題を共有し合い、これからの取り組みについて意見を交わしました。

二日目の午前は、江波地区にあるシュモーターハウス、広島市江波山気象館を巡るコースと、広島平和記念資料館、平和記念公園を巡るコースに分かれ、見学しました。



池田精子さんによる被爆体験講話の様子

その後、12歳の時、爆心地から1.5km離れた場所で建物疎開の作業中に被爆された池田精子さんの被爆体験の聴講や、松井悟副館長の案内による国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の見学を行いました。



平和記念公園でガイドを受ける参加者

午後は、広島通信病院旧外来棟被爆資料室、広島城の大本営跡と旧中国軍管区司令部防空作戦室を、ヒロシマ・ピース・ボランティアの案内で見学しました。

参加者からは、「広島原爆被害の状況を知ることができ、これからのガイドの大きな力になりました」、「二日間を通して、移動時間や班行動の際に、継承部会員と平和案内人がじっくり

と話すことができ、交流を深めることができました」、「同じ被爆地として、これからも広島との交流を続けていきたい」などの感想が寄せられました。

《研修日程》

1日目 2月19日 (火)

- ・ 献花・黙祷（原爆死没者慰霊碑）
- ・ 班別見学（広島平和記念資料館、平和記念公園）
- ・ 広島被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティアとの交流会

2日目 2月20日 (水)

- ・ コース別見学（シュモーターハウス、広島市江波山気象館、広島平和記念資料館、平和記念公園など）
- ・ 被爆体験講話（池田精子氏）
- ・ 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の見学
- ・ 広島通信病院旧外来棟被爆資料室、旧中国軍管区司令部防空作戦室の見学

24年度被爆体験講話状況報告

被爆67年目を迎えた平成24年度も、多くの小・中・高校から、被爆体験講話の依頼をいただきました。23年度は東日本大震災後に修学旅行先を変更した学校からの申し込みが多かった影響があり、23年度の実績と比較すると件数は減りましたが、地域別にみると、海外からの申し込みが着実に増えています。



原爆資料館・平和学習室での講話の様子

この実績には、修学旅行で長崎を訪問した学校を中心に、原爆資料館や追悼平和祈念館など長崎市内で行った講話以外に、県内外の自治体等からの要請を

受けて継承部会員を派遣した件数も含まれています。24年度は宮崎県日向市、大阪府八尾市、神奈川県藤沢市など18市町（長崎県被爆体験講話者派遣事業分を含む）を訪問し、被爆体験講話を実施しました。前号でもお知らせいたしました。24年度は東北地方からの依頼が多く、宮城県美里町、福島県福島市なども訪問しました。



藤沢市・長後中学校での講話の様子

また、23年度から長崎県が主催する「被爆体験講話者派遣事業」にも継承部会員を派遣しました。24年度は留学生を主な対

象とする県外大学4校のほか、雲仙市・小値賀町・平戸市の県内3市町で開催され、多くの方にご来場いただきました。

年度	件数(件)	人数(人)
20年度	1,192	159,880
21年度	1,279	166,166
22年度	1,333	165,859
23年度	1,352	172,820
24年度	1,295	167,642

被爆体験講話件数と聴講者数の推移
(24年度は25年2月末現在)

平成25年3月現在での継承部会員の平均年齢は、78・8歳となりました。体調不良や病氣治療などにより、継承部会を退会される方、活動を休止される方も増えていますが、継承部会では被爆体験の継承について課題や方法を検討しながら、多くの方に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴えるため、これからも活動に取り組んでまいります。

継承部会・平和案内人 交流会を開催

2月2日、長崎市平野町の宝来軒別館において「継承部会・平和案内人交流会」を開催しました。今回は継承部会員22人、平和案内人19人、事務局7人の48人が参加し、食事しながら、各テーブルでおしゃべりに花を咲かせました。途中、詩吟や歌が披露されたほか、平和案内人が弾くピアノに合わせて、継承部会員や平和案内人が一緒に歌う場面もありました。

継承部会員と平和案内人が交流を深める有意義なひとときとなりました。



アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム

3月14日から同20日にかけて、追悼平和祈念館が主催する「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」が開催されました。

マレーシア人、韓国人の計17人が来崎

今回は、マレーシア・マラヤ大学からはアジア・ヨーロッパ研究所長のモハメド・ナスルディン博士、東アジア研究学科長のアリアス・アブドラ博士と学生7人、また(社)釜山国際親善協会からは李相烈常任理事と同協会が選抜した大学生・高校生7人の合計17人が来崎しました。

一行が到着した3月14日には歓迎式を行い、翌15日は継承部会員・早崎猪之助さんの被爆体験講話の聴講や原爆資料館、追悼平和祈念館、爆心地公園の見学を行い、被爆の実相について学習してもらいました。

活水高校によるプログラム 日本人学生や留学生も参加

16日・17日の両日は、日本人の大学生・高校生や社会人、さ

らには長崎在住の留学生も参加して、交流やグループディスカッションを行いました。この2日間は、活水高等学校平和学習部のいしぶみもり活動グループのメンバーに企画、運営を行っていただきました。

特に、グループディスカッションでは、長崎原爆や福島原発事故などを踏まえつつ、若者として平和の実現のために今後どのようなことができるかについて活発な議論が交わされました。

18日は、長崎の歴史や文化を学ぶため、長崎歴史文化博物館の見学を行い、20日、帰国の途



ディスカッション(上)・交流(下)の様子

につきました。



参加者集合写真

今回参加したマレーシア、韓国のメンバーより感想をいただきましたので、その一部を掲載します。

●私は、平和の実現は家族から始まるべきだと思います。そして、学校でもそのような調和した生き方を学ぶべきです。私は、今回はじめて日本へ来て、日本社会の調和した生き方を見て、素晴らしいと思いました。このような生き方は、世界平和の実現に向けて参考にされるべきだと思います。

●私は、宗教や人種に関係なく協力合うことはとても重要だと思います。今回のようなプログラム

ラムは、平和の実現の第一歩だと思いました。

●私は、平和の実現において、言語はとても重要な要素だと思います。言葉の壁によって、新しいさかいが生まれてしまうこともあります。私は、これから日本語を世界の第二言語にするべきだと思います。

●私は、せっかくいただいたこの機会を無駄にしないよう、参加者の皆さんと協力して、平和についてしっかりと考えたいです。私たちのような世代が、国を越えて平和について共に考えることは、世界を平和にするための、小さいけれど大切な一歩だと思っています。

●このプログラムに参加する前には平和について詳しく考えたことがあまりありませんでしたが、今回のプログラムをきっかけに平和のために私たちにできるものが思ったより多いということがわかりました。

●ディスカッションには本当に自信がなくてずっと心配していました。しかし、自分の考えを自由に話すことができ、ディスカッションでたくさん学びました。

平和朗読 ~明日、あなたが語るナガサキ~

3月16日、晴天のなか、当協会設立記念事業「平和朗読 明日、あなたが語るナガサキ」を長崎市平和会館ホールで開催し、約600人の来場者が俳優・上條恒彦さんとアウンサー・加賀美幸子さんの朗読に耳を傾けました。

この平和朗読は、当協会が運営する国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が平成25年で開催10周年を迎えるのを記念し、祈念館内で放映している「原爆詩シアター」の朗読を行っているお二人をお迎えしたものです。

水の流れのような優しい語りかけの加賀美さんと男らしい低い声で心を動かす上條さんの「少年を追う」「晩夏」などの朗読に、満員の会場にはしんとした空気が張り詰めた、時折すすり泣く声も聞かれました。

お二人の朗読を聴かれた来場者からは「朗読ボランティアを目指し勉強しているが、

非常に参考になった」などの声が多く聞かれ、今後もこのような朗読会を開催してほしいとの要望がありました。今後も協会ならではの設立記念事業を開催してまいりますのでぜひご参加くださいますようよろしくお願い致します。



上條恒彦さんによる朗読



加賀美幸子さんによる朗読

アジア青年平和交流事業

報告会を開催

3月17日、追悼平和祈念館交流ラウンジにおいて当協会事業「アジア青年平和交流事業」の報告会が開催され、昨年7月の公開コンペティションで事業認定された長崎外国語大学と長崎大学の学生計3グループによる活動報告が行われました。

長崎外国語大学の「通訳・翻訳プロジェクトA」からは、今年1月に実施した「国際交流サロンIN長崎」の成果について報告がありました。また、同大学の「通訳・翻訳プロジェクトB」は、被爆者・松添博さんの証言映像に英語、中国語、仏語の字幕をつけた映像を上映しました。長崎大学の「映画映像制作研究サークル止止(とまと)」は、平和祈念館を描いた布に、市民や外国人の方に手形をスタンプしてもらった様子を撮影、編集した映像を上映しました。いずれの報告も、学生たちが

苦勞しつつもしっかりとした形のある事業を実現することができたことを示すもので、特に映像に関しては、来場者から、「出来栄が素晴らしく、動画投稿サイトへの掲載など、今後これらを活用していくことをもっと考えていくべき」との意見が出されました。

協会では、今年度も大学生、高校生に向けて事業の募集を行うこととしています。



事業報告会の様子

市民対象碑めぐりを開催

3月17日、継承部会原爆遺跡研修班が主催する市民対象碑めぐりを開催しました。

約50人の市民らが参加し、活水中学・高校（旧鎮西学院中学校）では芝生広場に見学された被爆校舎の外壁の一部などを見学し、県立長崎西高校（旧県立瓊浦中学校）では、当時の在校生でもある丸田和男さんから被爆体験や被爆遺構について語っていただきました。

このほか、市立淵中学校（旧淵国民学校）の被爆校舎の一部や同校の写真展示コーナーを見学しました。

高校生など若い世代の方の参加もあり、参加者は当時の状況を追体験し、被爆の実相を知ることができた碑めぐりとなりました。



北朝鮮の核実験等に対し抗議文を送付

2月12日、北朝鮮が3度目の核実験を実施したことに対し、当協会は金正恩第一委員長および申善虎国連代表部大使へそれぞれ抗議文（ハングル・英字）を送付しました。

実験は、東アジアおよび国際社会全体の平和と安全を著しく脅かす愚行であり、核兵器廃絶への道筋を見出そうと努力を重ねている国際社会へ背を向ける行為であると強く抗議し、核兵器の開発を即刻中止するよう要求しました。

また、3月12日報道の米国による新型核性能実験に対しても抗議文を送付しました。

「長崎市の平和・原爆」フェイスブックページが開設

原爆資料館・原爆被爆対策部調査課・当協会からなる「長崎市の平和・原爆」フェイスブックページが開設されました。

さまざまな情報を発信していきますので、ぜひ「いいね！」してください。

URL・二次元バーコードはこちら→  <http://www.facebook.com/nagasakipeace/>

賛助会員のご紹介②

前号に引き続き、当協会の趣旨にご賛同いただいている賛助会員をご紹介します。ご支援・ご協力、誠にありがとうございます。

(株)K T Nソサエティ、長崎放送(株)、日本放送協会長崎放送局、(株)長崎新聞社、ヴィアートル学園洛星中学校、長崎市保育会、長崎市小学校校長会、長崎市中学校校長会、長崎県教育会、長崎純心女子学園、友愛富士見町保育園、旭丘高校の教育を守る会、田園調布雙葉中学高等学校学校行事部、原爆被爆者特別養護老人ホームかめだけ、恵の丘長崎原爆ホーム、村田眼科、ふじもとクリニック、平野医院、長崎みどり病院、欽先医院、林医院、虹が丘病院、倉田醫院、長崎友愛病院、三島内科医院、高松整形外科医院、長崎百合野病院、押測クリニック、長崎リハビリテーション、(社)清心会、長崎県映画センター、カトリック長崎大司教区、常在寺、光源寺 (順不同)

会員数報告

◎維持会員

1、114人

◎賛助会員

155人

◎学生会員

11人

平成25年3月16日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

◎四田 忠夫

二万円

◎匿名

六千円

(敬称略)

会費納入のお願い

当協会の活動は、みなさまからいただいた会費によって支えられています。まもなく平成25年度の会費の払込取扱票をお送りいたしますので、最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。